

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菊陵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知りたいとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

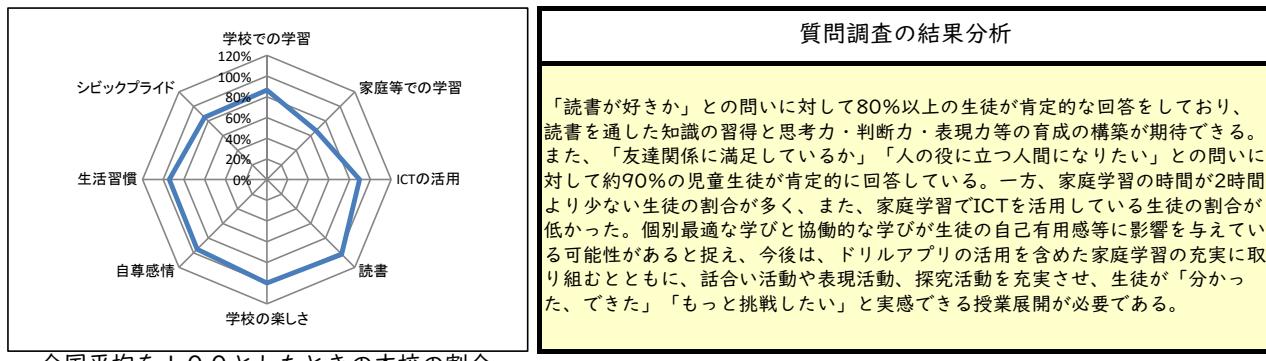
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	思考力・判断力・表現力等を問う問題のうち、「書くこと」の領域において、正答率が全校平均を上回る問題があるものの、その他の問題・領域については全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「書くこと」の領域のうち、目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にできるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	「書くこと」の領域のうち、「読み手の立場に立って、表記を確かめて文章を整えることができるかどうかをみる問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	知識・技能を問う問題のうち、「関数」の領域において、正答率が全国平均を上回る問題があるものの、その他の問題・領域の正答率は全体的に全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「関数」の領域のうち、「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	「数と式」のうち、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	思考力・判断力・表現力等を問う問題のうち、「粒子」を柱とする領域において、正答率が全国平均を上回る項目があるものの、その他の問題・領域については正答率が全校平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「粒子」を柱とする領域のうち、科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	「粒子」を柱とする領域のうち、塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

各教科において、習得した知識・技能を生かして、根拠となる情報を集め、整理し、自分の思考を正しく表現する学習活動を重点的に取り入れる必要がある。そのため、ドリルアプリの効果的な活用、話合い活動やICTを取り入れた表現活動の質の向上に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

各学年の実態に合わせた「自学ノート」の充実とドリルアプリの活用を通して、家庭学習習慣の定着強化を図る。また、校内「いいねノートコンクール」を継続実施し、「自学ノート」活用の好事例を共有することで、家庭学習の質の向上を目指す。